

航空機操縦士養成連絡協議会 航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

裾野拡大ワーキンググループ 平成30年度とりまとめ

1. ワーキンググループ構成員

別紙のとおり

2. 平成30年度における取組み

(1) 現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会の開催

一般社団法人日本航空女性協会取りまとめの下、両協議会が連携し開催された「航空教室（女性限定）特別版 Yes I Can!」について、今年度は平成30年12月16日にヘリコプター部会とも連携し女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による仕事の紹介、講演、グループディスカッションが行われ、昨年を大きく上回る64人の参加があった。実施後のアンケートでは、“大変有意義だった”との回答が全体の9割程度を占め、「現場で働く方のリアルな声を聴けて大変参考になった。」「今まで知らなかった職種について学ぶところがたくさんあり、航空業界について広い視点で考えることができた。」等の声もあった。参加者にとってより具体的に操縦士、整備士、製造技術者の仕事がイメージできる有用な取組となった。

(2) 航空機産業人材確保に関する取組み

経済産業省（中部経済産業局）において、航空機産業に関心のある若手人材を発掘し、仕事の理解促進や職業意識の醸成を図り、航空機関連企業等の将来的な人材確保支援を図った。具体的には、(独)国立高等専門学校機構及び地域の高等専門学校と連携し、学生を対象に航空宇宙関連企業等からの講師による、航空宇宙先端技術分野に係る特別講義を5回に亘り実施した。同機構のTV会議システムを活用して講義の様子を中継配信し、関心のある全国15高専の学生が参加した。また、ウェブサイト等を通じてインターンシップ受け入れ実施企業の情報を発信した。

(3) 空の日や子ども霞が関見学デー等のイベント実施

平成30年8月1日及び2日の二日間に渡り開催された国土交通省における「子ども霞が関見学デー」において、JAPPAやJAEA、全航連をはじめ航空会社が協

力し、現役操縦士・整備士・客室乗務員による仕事紹介や日本航空学園ご協力によるフライトシミュレーター体験などを実施した。当該イベントには、国交省全体で約4,800名の参加者（前年比約125%）があり、多数の参加者のなか、次世代を担う世代の裾野拡大につながる有用な取組となった。

また、公益財団法人日本学生航空連盟は公益社団法人日本滑空協会と共催で、平成30年10月21日に妻沼滑空場にて”スカイスポーツフェスタ イン埼玉”を開催し、一万を超える来場者を迎え、グライダー、熱気球、ハングパラグライダー、モーターパラグライダー、自作航空機、模型飛行機などを実際に”乗る、ふれる、飛ぶ”ことができる体験や、千歳、小松、熊谷、入間、岐阜の各航空自衛隊基地祭に際しては、グライダーの飛行、地上展示を行い10万人を超す来場者に”より近い空”をアピールするなど、航空思想文化の普及発展の一助となる活動を実施した。

(4) 各航空会社における取組み

各航空会社において全国各地における航空教室の実施や工場見学、空の日への参加等様々なイベントを通じ裾野拡大に係る活動を実施した。

4. 平成31年度における取組み

平成31年度においては、今年度実施した子ども霞ヶ関見学デーなどの取組みについては、引き続き計画・実行することとしたい。航空機産業人材確保については、これまで高専生に対して専門技術者による講義等を実施し一定の成果が出たことから、引き続き、こうした学生向け取組みを検討していく。

その他の取組みについても関係機関と連携しつつ、可能な限り継続して実施されることが望ましい。また、両協議会事務局からその他裾野拡大に関する取組みについて協力依頼があった場合は、引き続き関係者の積極的な協力が期待される。一方で、協議会員各位においても、裾野拡大に関する取組みを検討する上で、個社での実施が難しい場合は他の会員に協力を要請したり、協議会事務局へ相談したりするなど、相互に協力して取組むことも想定される。

5. 平成31年度以降の進め方

(1) 裾野拡大ワーキンググループについて

裾野拡大ワーキンググループは平成31年度以降も存続し、別途開催する必要があると判断した場合に開催するものとする。なお、ワーキンググループは各協議会の取組みの内容により、協議会ごとに開催する場合も想定される。

<<添付資料>>

- ・裾野拡大ワーキンググループ平成30年度とりまとめ参考資料
- ・裾野拡大ワーキンググループ構成員名簿